

「お母さんの請求書」という小学校では定番の道徳の教材がある。男の子がいろいろとお手伝いをしたことに値段をつけて、母親に請求書を出す。それに対して母親は「毎日の食事づくり0円、お洗濯0円、病気のときの看病代0円…」と書いた全部0円の請求書を黙って返す「勤労・家族愛」などをテーマとしたもので、先日の4年生の授業参観でも行われた。

この「お母さんの請求書」について物議が起きている。『そもそも家事を母親のものと決めつけている』『家事は女性の仕事と小学生にすりこんでいる』といった男女不平等批判である。なるほどなあ…

童話「泣いた赤おに」の作者、浜田広介の名言に『つよく やさしく男の子・やさしく つよく女の子』がある。同じことを言っているようだが、この名言もNGなんだろうか。担任時代には教室に掲示していたこともある個人的には好きな言葉だが、これも男女平等ではないと言われればそうだが…。

私の頭が今の風潮に追いつかない。

「男らしく・女らしく」「男だから・女だから」は人種差別同様、性差別として禁句となりつつある。

先の「お母さんの請求書」の授業の感想文で、ある子供が『お母さんからは、お金をとらないようにしたい』と書いていた。「じゃあお父さんからはとるのかよ！」と心の中でツッコみたくなった。これは性差別以前の問題であるが…。笑ってしまった。